



つながる

令和6年3月6日
特別支援教室拠点校
江戸川区立北小岩小学校
校長 藤島 寿晴
特別支援教室「つながる」
巡回指導だより No.12

1年間ありがとうございました

少しずつ暖かくなり、春の気配が本格的に感じられるようになってきました。さて、特別支援教室の今年度の指導も間もなく終了となります。ご家庭におかれましては、今年度の教育活動へのご理解ご協力を賜りましたことについて、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

なお、来年度も継続して巡回指導を利用するお子さんの今年度の指導の様子などについては、担当者間で適切に引き継ぎをいたしますので、ご理解ご協力をお願いいたします。



お知らせ

卒業する6年生の保護者へお知らせします。使用していた連絡帳を入れる青い袋は最終指導日に担当が預かりバインダーのみ返却します。また、指導した資料などを児童に渡す場合もありますので、あらかじめご承知おきください。

自立へ向けて

さて、3学期ももうすぐ終わろうとしています。1年は早いなあとつくづく感じますね。

保護者の皆様におかれましては、3学期のお忙しい時期に、面談を予定に入れていただき、ありがとうございます。次年度へ向けて、有意義なお話をさせていただくことができました。

子供たちの成長の様子や変容の様子、家庭での支援の工夫や、連携されている関係機関のこと、様々なお悩みなどお聞きすることができました。保護者の方々の家庭での支援や寄り添い方をお聞きし、我々も学んでいかなければならないことの多さを実感しました。これからの指導、支援に生かしていきたいと思えます。

その中で、進路の話がよく出てきます。卒業を控えた6年生の児童には、将来の見通しをもたせるために、「小学校と中学校の違い」を指導しています。では、周囲の支援者として、進学する子供たちをどう支援していくのか、どう考えたらよいのか悩むところです。

ある教育サイトには、こうありました。「小学校は、自主自立を目指すため、こまめな声かけと指導をする」「中学校は、声かけで見守りつつ、自己管理は自己責任」なるほど、その通りだと思います。

中学校は、大人が子どもに対して細やかに配慮するというよりも、子供自身が自分の得意不得意を理解しながら必要なことは自ら申し出られること、困ったら自分で先生方に伝えられることを目指してゆく時期になります。そのあたりで保護者の方が戸惑われることもあります。保護者の方にとっては、徐々に手を放していく練習だと思っていただくとよいかなと思います。

「転ばぬ先の杖」という例えがあります。「さまざまナリスクや不測の事態に対し、十分な準備をして備えておくこと」のたとえとして使用される言葉です。課題を抱えた子供たちに、杖は必要です。しかし、将来杖を外していけるように、自分の足で歩いていけるようにしていきたいですね。

1年間、ご理解ご協力いただきありがとうございました。

(平田)